

# 第1回日本糖尿病理学療法学会学術集会

## プログラム

### 学会テーマ

「未来への一歩，糖尿病理学療法の確立へ向けて」

会 期：平成27年1月31日（日）

会 場：千里ライフサイエンスセンター

学術集会長：井垣 誠（公立豊岡病院日高医療センター）

主催 日本糖尿病理学療法学会

## 学術集会長 ご挨拶

### 第1回日本糖尿病理学療法学会学術集会

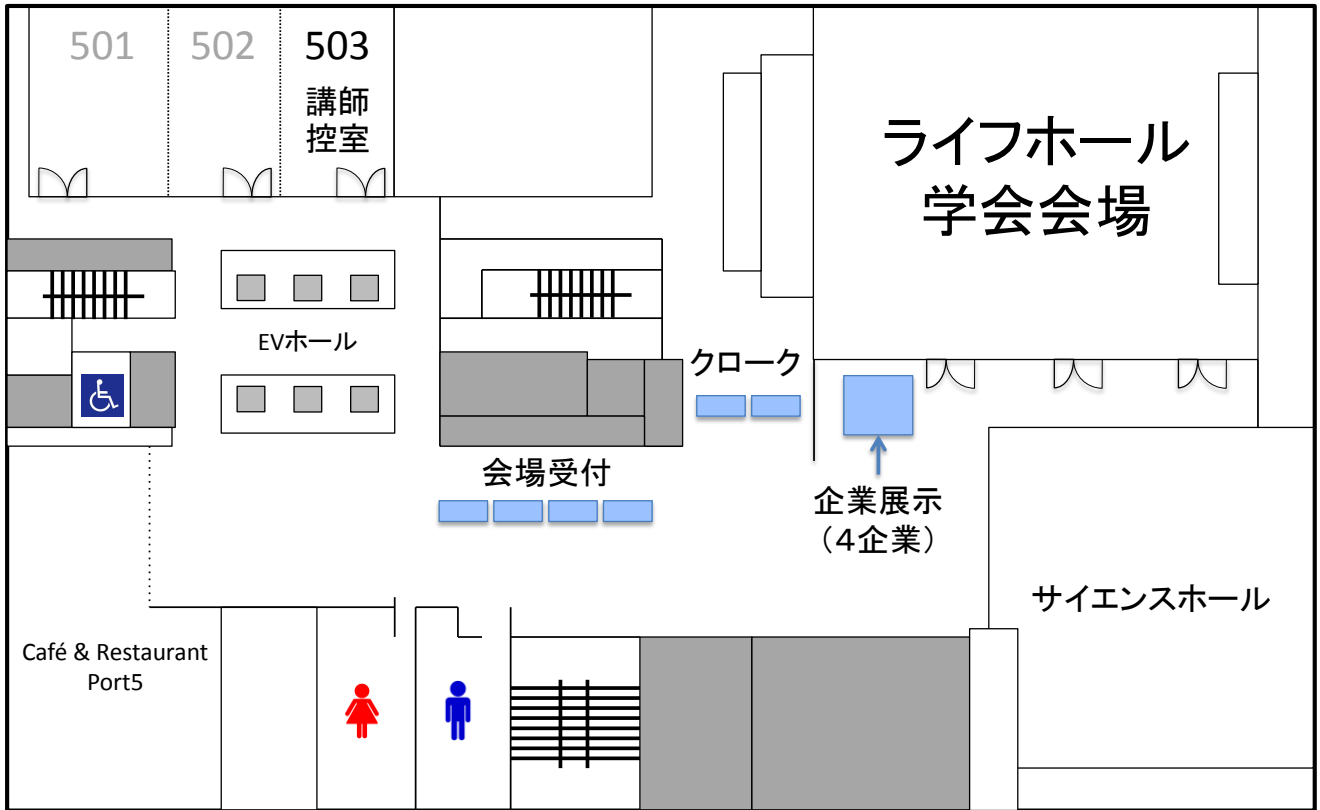
学術集会長 井垣 誠

この度、第1回日本糖尿病理学療法学会学術集会を2015年1月31日（土）、大阪の千里ライフサイエンスセンターにおいて開催することとなりました。本学会は昨年度に設立され、代表運営幹事である野村卓生先生（関西福祉科学大学 教授）を筆頭に14名の運営幹事が選任されて活動を開始しました。今回は、第1回の記念学術集会であり、テーマを「未来への一步、糖尿病理学療法確立に向けて」として様々な内容を企画いたしました。

プログラムについては、清野裕先生（関西電力病院長・日本糖尿病協会理事長）にご登壇いただき、「日本糖尿病理学療法学会に求めること」と題して本学会運営幹事と座談会を行います。また、特別講演として坂根直樹先生（国立病院機構京都医療センター）をお招きし、行動科学を用いた運動指導についてご講演をいただきます。糖尿病治療は学際的アプローチが重要であることから、シンポジウムでは糖尿病の運動療法をテーマとし、糖尿病専門医、薬剤師、管理栄養士、看護師それぞれの立場からの糖尿病療養指導について発表・ディスカッションを行います。今回の学術集会では、準備期間の関係から一般演題の募集は行いませんが、指定演題として糖尿病理学療法に関する最新の研究を紹介していただきます。

糖尿病に対する理学療法は、学問体系として確立されているわけではありません。エビデンスの構築とともに糖尿病療養指導への確実な参画を目指し、本学術集会が糖尿病理学療法道の道標となることを願っております。

## 会場案内図



### 【会場内の留意点】

- (1) 会場内では携帯電話の電源はオフまたはマナーモードにしてください。
- (2) 会場内での許可のない撮影・録音は禁止させていただきます。
- (3) 会場内は禁煙となっております。喫煙は所定の場所にてお願いします。
- (4) ゴミはご自身でお持ち帰り下さいますようお願いいたします。

# 第1回日本糖尿病理学療法学会学術集会プログラム

[8:15]受付開始

[9:00]開会挨拶

野村卓生（関西福祉科学大学、日本糖尿病理学療法学会代表運営幹事）

[9:10]Campaign Speech

植木浩二郎（東京大学大学院医学系研究科 特任教授、日本糖尿病学会常務理事）

[9:25～9:50]学術集会長基調講演「糖尿病理学療法の花と影」

井垣 誠（公立豊岡病院日高医療センター）

[9:50～11:00]座談会「日本糖尿病理学療法学会に求めること」

司会；大平雅美（信州大学）

清野 裕（関西電力病院 院長）、石黒友康（健康科学大学）、野村卓生（関西福祉科学大学）

[11:10～12:10]糖尿病理学療法研究

座長；横地正裕（医療法人三仁会あさひ病院）、松永篤彦（北里大学）

1) 2型糖尿病患者における低運動耐容能の原因を探る

宮本俊朗（兵庫医療大学大学院 医療科学研究科）

2) 血液透析患者において血糖コントロール不良は末梢動脈疾患の合併リスクを増加させる

松沢良太（北里大学病院 リハビリテーション部）

3) 糖尿病性ニューロパチーは $\gamma$ 運動ニューロンを選択的に減少させる

村松 憲（健康科学大学 健康科学部）

[12:20～13:00]ランチョンセミナー（株式会社MSDとの共催セミナー）

座長；植木浩二郎（東京大学大学院医学系研究科 特任教授）

「糖尿病患者における運動療法の現在とこれから」田村好史（順天堂大学大学院 医学研究科 准教授）

[13:10～14:00]特別講演

「楽しくてためになる糖尿病教育の実践ーエビデンスと行動科学を用いた運動指導を目指してー」

坂根直樹（独立行政法人 国立病院機構京都医療センター 予防医学研究室長）

[14:10～15:50]シンポジウム「効果的な糖尿病の運動療法の実践を目指して」

座長；田中永昭（関西電力病院）、片田圭一（石川県立中央病院）

1) 運動療法の最新エビデンス；田中永昭（関西電力病院 糖尿病・代謝・内分泌センター）

2) 糖尿病治療薬と運動療法；増本憲生（市立川西病院 薬剤科）

3) 栄養と運動；北谷直美（関西電力病院 疾患栄養治療センター）

4) 糖尿病療養支援：運動療法；藤原優子（大阪大学医学部附属病院 糖尿病ケア・看護外来）

総合討論：座長、講師全員

[15:55] 閉会挨拶

河辺信秀（茅ヶ崎リハビリテーション専門学校、日本糖尿病理学療法学会運営幹事）

# 日本糖尿病理学療法学会ステートメント

## 【日本糖尿病理学療法学会の目指すところ】

糖尿病は増加の一途を辿る国民病であり、理学療法士には糖尿病の基本治療である運動療法の専門家として、糖尿病チーム医療の主軸を担うことが期待されています。理学療法士による糖尿病患者への関わりは世界的にも類がなく、また、糖尿病理学療法に関するエビデンスは蓄積されていません。本学会は、糖尿病に対する理学療法の理論、介入方法および効果検証に関する学術研究の振興と発展を図り、世界に先駆けて糖尿病理学療法学の体系化を目指します。また、理学療法診療ガイドラインや成書の作成、糖尿病理学療法を専門とする人材育成への活動も推進します。

## 【糖尿病治療における運動療法の問題点と糖尿病理学療法】

糖尿病の基本治療である運動療法のエビデンスは集積されていますが、他の基本治療と比較して実施率が低く、この状況は現在も改善していません。近年、糖尿病では、特有の合併症である糖尿病神経障害の合併とその重症化によって、筋力低下などの運動器障害、バランス障害や歩行障害を来すことが明らかにされ、新しい疾患概念を形成して診療にあたる必要があります。

## 【日本糖尿病理学療法学会の使命】

理学療法士の介入により運動療法の実施率が向上することを示す必要があります。また、糖尿病患者の運動器障害に対する理学療法介入の必要性和有効性を明らかにする必要があります。さらに、理学療法は神経障害や動脈硬化性疾患（足病変や末梢動脈疾患）などの糖尿病慢性合併症に有効ですが、十分に普及しているとは言えません。内部障害を専門とする理学療法士のみならず、神経系や運動器等を専門とする理学療法士への協力を要請し、本学会はこれらの課題に取り組み、糖尿病理学療法を広範に普及させる活動を行います。

## 【本学会で対象とする主な領域】

1. 糖尿病に対する運動療法と疾患管理指導（行動科学的理論に基づく療養指導）
2. 糖尿病特有の合併症やそれに伴う身体機能ならびに生活機能障害に対する理学療法
3. 糖尿病管理に関連する腎臓や肝臓などの機能低下・障害、肥満症等に対する運動療法および疾患管理指導

## 【関連学協会との連携・協働】

下記の関連学協会等と連携・協働し、理学療法に必要な専門領域の学術（academy）を重視し、理学療法を基盤として発展させることはもとより、糖尿病の予防と治療に貢献し、患者の利益を追求します。

日本糖尿病学会、日本糖尿病協会、日本糖尿病療養指導士認定機構など